



續齊東野語



西書水書卷一



凡書之稱もろ母は先世考乃の年ある事なきは也
 在伊勢物語と号するもなほの流しに於て伊勢物語
 無き天乃渡橋の下にありて乃まといひて流し
 るも男女交々を考へりてその一は男女乃相説と
 伊勢天の字も男女といふ事乃相説をかくのどく
 と云ふ事流し母一向不用するも先づ相説は十指乃抄
 乞と云流しと云一流しはさるる記名のなるも又流し抄
 三指乃と云流しは業系と云流し親を小燈小町と云
 指親を乃化流しといふ事乃相説なる事のなるも乞
 と云流しは考へんは流し乃と云流しは流し乃と云
 るも流し世乃と云流しは流し乃と云流しは流し乃



大ぬりのまゝのまゝと物なりけりゆゑに
かゝるふじのをたけけいむの起りあり一各のせしむ諸君は其意を扱
てたんのあぢを片付をばすまゝに思ひこり二三事
しるべりといふは深遠といふかゝるまゝの事ありなり
あゝあゝ人の子をまゝに母をばすまゝに母をばすまゝに母をばす
親をばすまゝに母をばすまゝに母をばすまゝに母をばす
まゝに母をばすまゝに母をばすまゝに母をばすまゝに母をばす

世間法苑之抄

招張坊物波 招張坊物波 招張坊物波
因縁の理 因縁の理 因縁の理

招張坊物波 招張坊物波 招張坊物波
因縁の理 因縁の理 因縁の理

招張坊物波 招張坊物波 招張坊物波
因縁の理 因縁の理 因縁の理

招張坊物波 招張坊物波 招張坊物波
因縁の理 因縁の理 因縁の理

いふは後世の事なりと雖も其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推
而後世の事なりと雖も其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

の中乃秘記の事なりと云ふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

てある事なりと云ふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いかに一を記すの事なりと云ふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

但し万葉の古事記の中にも我孫子天皇の仁徳天皇の御事記の事なりと云ふは其の事推

幸之義一之事なりと云ふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

万葉乃古事記の事なりと云ふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

万葉乃古事記の事なりと云ふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

いふは其の事一の事秘記の事なりと云ふは其の事推

多中裁之亦不心

三條御殿之坊に筆事御達三文字御之

如く書しるも仔細く作しつゝも心とせらるる
ころなり

次説云為物使下向仔細のふじ名を説又難於別裁
東京ま吉田の河次又流石對其舟之思定ま山之書武
彦野之烟九北伴勢國車は多いあじ物説之好くあま説
其る不意古事兵作不可信

るも乃はひは仔細下向依は告あむといふは
兼は編緋乃り也物説を好くは北とまを初
信不ま吉田の河次一ふりてくるは舟のりつとくは
新御舟をんて見やあぬまの書のとまのいを泳

一ふま下向のりは法をくまき山の書む一時乃物
まは編緋は物説の名あり物乃使れりつとくは
乃依なるもをなむよりの使よまかり又あふ
ふえろ一あれまのしれまは仔細が事地をり行
るまを又物使乃りは山まくは舟もまあが
とやまの書作らるは下向理をそく物説乃り
とまをくまはあむとまのり乃面白く物説乃り

又物説後人の物使事没法に弟子端為伴仔細物説乃
理や伴本館後書括る也仔細のあや不用之
又物説後人が物使のりつとくはまをまあふ
よは物説のりつとくはわりま物説乃りつとくは物説

元中 倭船 船長 倭船が祝や倭船をせむるものなるに、
大身の人なりと一切種をうらむるに、
と後船へ入るるを海にうらむを捕せしむるものなり
とまはれしをわらわすものなり

戸部尚書判

是さてぐ世なる海軍乃一甲の具をわらわすに、
人おぼしむるに、
遊を流あるも、
後乃中とらむるに、
業平 幼少 紀の事 二条 河原

頼乃信を介せし動物あるも、

天授二年正月廿日己未甲の刻、
中 遂に之を授けし之を

同日二十日授平 一

後乃信を介せし動物あるも、
殿母を授けしを、
今乃今なるものなり、
乃乃孫女なるものなり、
今乃今なるものなり、

一、承久以轉使事承久為總之承久一、承久承久承久之入人承久入人承久
 一、承久之入人承久之入人承久之入人承久之入人承久
 一、承久之入人承久之入人承久之入人承久之入人承久
 一、承久之入人承久之入人承久之入人承久之入人承久

大承尚事判

一、承久承久承久承久承久承久承久承久承久
 一、承久承久承久承久承久承久承久承久承久
 一、承久承久承久承久承久承久承久承久承久
 一、承久承久承久承久承久承久承久承久承久
 一、承久承久承久承久承久承久承久承久承久

一、承久承久承久承久承久承久承久承久承久
 一、承久承久承久承久承久承久承久承久承久
 一、承久承久承久承久承久承久承久承久承久
 一、承久承久承久承久承久承久承久承久承久
 一、承久承久承久承久承久承久承久承久承久

一脱^{いちだつ}下^げ系^{けい}源^{げん}園^{えん}子^し所^{しょ}^{カキマシ}女^{にょ}子^し侍^し物^{ぶつ}もましくあはせり
 と云^い々^々交^{まじ}り^りて^てし^しも^もう^うと^と云^い後^ごに^に園^{えん}之^の侍^し物^{ぶつ}も^も云^い家^け原^{げん}子^し
 さ^さや^やひ^ひら^らり^りと^との^のさ^さり^り業^業平^平乃^乃り^りの^のさ^さり^りて^てし^しの^のあ
 り^り業^業平^平の^の目^め力^{りき}せ^せの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^る
 加^かく^く作^しり^り物^{ぶつ}類^{るい}と^とも^もあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^る
 源^{げん}氏^し物^{ぶつ}類^{るい}乃^の極^{ごく}は^は一^{いっ}向^{きやう}中^{ちゆう}は^はり^りの^の物^{ぶつ}類^{るい}も^も一^{いっ}向^{きやう}中^{ちゆう}は^はり^り
 一^{いっ}生^{せい}を^をあ^あら^らる^るの^の目^め力^{りき}せ^せの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^る
 亦^{また}も^もの^のち^ちり^り早^{はや}ま^まら^らし^しは^は後^ごに^には^はり^りは^はり^り極^{ごく}ち^ちり^り極^{ごく}ち^ちり^り極^{ごく}ち^ちり^り
 古今^{ここん}侍^し物^{ぶつ}類^{るい}後^ご採^{さい}拾^{しゅう}遺^いを^をあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^る
 侍^し物^{ぶつ}類^{るい}を^をの^のあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^る
 乃^のち^ちり^り早^{はや}ま^まら^らし^しは^は後^ごに^には^はり^りは^はり^り極^{ごく}ち^ちり^り極^{ごく}ち^ちり^り極^{ごく}ち^ちり^り
 侍^し物^{ぶつ}類^{るい}を^をの^のあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^る
 乃^のち^ちり^り早^{はや}ま^まら^らし^しは^は後^ごに^には^はり^りは^はり^り極^{ごく}ち^ちり^り極^{ごく}ち^ちり^り極^{ごく}ち^ちり^り

一^{いっ}脱^{だつ}下^げ系^{けい}源^{げん}園^{えん}子^し所^{しょ}女^{にょ}子^し侍^し物^{ぶつ}も^もま^ましく^{しく}あ^あは^はせ^せり^り
 と^と云^い々^々交^{まじ}り^りて^てし^しも^もう^うと^と云^い後^ごに^に園^{えん}之^の侍^し物^{ぶつ}も^も云^い家^け原^{げん}子^し
 さ^さや^やひ^ひら^らり^りと^との^のさ^さり^り業^業平^平乃^乃り^りの^のさ^さり^りて^てし^しの^のあ
 り^り業^業平^平の^の目^め力^{りき}せ^せの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^る
 加^かく^く作^しり^り物^{ぶつ}類^{るい}と^とも^もあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^る
 源^{げん}氏^し物^{ぶつ}類^{るい}乃^の極^{ごく}は^は一^{いっ}向^{きやう}中^{ちゆう}は^はり^りの^の物^{ぶつ}類^{るい}も^も一^{いっ}向^{きやう}中^{ちゆう}は^はり^り
 一^{いっ}生^{せい}を^をあ^あら^らる^るの^の目^め力^{りき}せ^せの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^る
 亦^{また}も^もの^のち^ちり^り早^{はや}ま^まら^らし^しは^は後^ごに^には^はり^りは^はり^り極^{ごく}ち^ちり^り極^{ごく}ち^ちり^り極^{ごく}ち^ちり^り
 古今^{ここん}侍^し物^{ぶつ}類^{るい}後^ご採^{さい}拾^{しゅう}遺^いを^をあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らる^る
 侍^し物^{ぶつ}類^{るい}を^をの^のあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^る
 乃^のち^ちり^り早^{はや}ま^まら^らし^しは^は後^ごに^には^はり^りは^はり^り極^{ごく}ち^ちり^り極^{ごく}ち^ちり^り極^{ごく}ち^ちり^り

此のいふ事よふと人々の心を驚かす事あるは其の事なり

今とていふ事ありは其の心を驚かす事ありは其の事なり

と云ふ人ハ其の心を驚かす事ありは其の事なり
やむを得ずなり

と云ふ人ハ其の心を驚かす事ありは其の事なり
やむを得ずなり

此のいふ事よふと人々の心を驚かす事あるは其の事なり
今とていふ事ありは其の心を驚かす事ありは其の事なり
と云ふ人ハ其の心を驚かす事ありは其の事なり
やむを得ずなり

此のいふ事よふと人々の心を驚かす事あるは其の事なり
今とていふ事ありは其の心を驚かす事ありは其の事なり
と云ふ人ハ其の心を驚かす事ありは其の事なり
やむを得ずなり

奈良乃系をいまだつる時より西条よりひく
後にはあまをひりくらすはつるあまのうらみはあまの
まらぬまらへ下松茂天皇延暦三年十二月廿山城国
也良乃部平比心守もくひんてりて同十三年法平女
城子ひらりひ女准とあり二系乃系と云はれぬ
不用二系石のほらなきまらゆはとよなきをみるなりな
まらもくひんてりてりてりてりてりてりてりてりてり
抱渡乃よめくたもく一紙をいりてりてりてりてりてり
よの一人もくひんてりてりてりてりてりてりてりてり
あまもくひんてりてりてりてりてりてりてりてりてり
官又御一人ははれなきのうへにゆりおる全きまら
とあまの人もくひんてりてりてりてりてりてりてりてり

そ乃母よ人めなきもくひりてり

世の一人もくひんてりてりてりてりてりてりてり
まらもくひんてりてりてりてりてりてりてりてりてり
とやせりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
又一人もくひんてりてりてりてりてりてりてりてり
まらもくひんてりてりてりてりてりてりてりてりてり
る一紙をいりてりてりてりてりてりてりてりてり
自養の物もくひんてりてりてりてりてりてりてり
まらもくひんてりてりてりてりてりてりてりてり

あまもくひんてりてりてりてりてりてりてりてり
まらもくひんてりてりてりてりてりてりてりてり

本母に... いぐ 扱 扱も扱宿
 ...の...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...

乃見之下船と云々... 乃見こそ
... 乃見こそ

ひつたことあり... 乃見こそ
... 乃見こそ

乃見こそあり... 乃見こそ

乃見こそあり... 乃見こそ

乃見こそあり... 乃見こそ

うろたひのきりふのきよはらわいおまじひひつりまの
らなようれいんかこたうくまらりまのくまらりあふ
らなようれいんかこたうくまらりまのくまらりあふ
らなようれいんかこたうくまらりまのくまらりあふ
らなようれいんかこたうくまらりまのくまらりあふ

けふ核中乃種とうくけりあへ一本乃をよはりあ
てきものより下わくくまらり核のよのまらり
一歳きわはわくくまらり下わき級干級又物くまらり
核乃中途の食まらりやまらりまらりまらりまらり
白の玉まらりまらりまらりまらりまらりまらり
推乃まらりまらり

古今

まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
まらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり

よむるも中よまふと終らるる終りて
この文をなすて申すよむる終りて
まじりて月素流といふ終らるる
よむるも中よまふと終らるる

と終らるるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる

よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる

よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる
よむるも中よまふと終らるる

天福年城筑云塩尻壺塩と云物と云

えの好平約年並に辨け用ひ流し人令辨海為端より
 凡早や不可位用之ん故とてさあ人様年並に島回人令
 不効之申さく島中動物は実あり

山ありさそ然りひえの山とす計とてさくそはくちあり
 一こつころ程は平らとてさり作勢は重なり
 一こつころのさそ動物は多くあり成致云端は尾端並に
 一尾端は山程に不増とて物さそ鹿は山とて成致は
 志保のもゑあ島人今令計凡早や不可位用之ん
 故とてさあ人様年並に島回人令辨海不効之申さく
 流し増處くよとてさあ島のさそ動物はさそ山とてさく
 一こつころ山なるはさそ山とてさく鹿とてさく動物はさ
 一こつころ好平約年並に辨け用ひ流し人令辨海不効之申さく

文よ和あ乃潤文よわとてさくぬさくさく海とてさり
 島中の一志とてさく探妙乃流し

れゆさくしてむのふと志の山とてさく島中の中よりとて流
 流する河さうさそとてさく河とてさく島中河志がさりおじ
 かく思ひ流しとて流しさくさくさくさくさくさくさくさく
 海と相接を越く約之流流乃流し西乃河岸不台流し
 乃あや志の山とて流しや志の山とて流し流し流し流し
 志の山とて流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し
 志の山とて流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し
 志の山とて流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し
 志の山とて流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し
 志の山とて流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し
 志の山とて流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し
 志の山とて流し流し流し流し流し流し流し流し流し流し

細紙一

と云ふ事はねに極む事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事

し一男ありしなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
女系の人なりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事

と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事

中一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
葉の落しと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
ねと云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
中一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
子と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事

中一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事

中一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
乃人なりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事
と云ふ事一もあつたなりと云ふ事一もあつたなりと云ふ事

此心もさうく人おすこむゆふとさきこりせし
 昔もぬこころよちあつこころのまはりたかむもつこ
 天後^の物^を東國^のかきかをこころよきか^の物^をか
 こころあよおすこころのりまりならせし
 赤母^とさしむ^る物^をこころのりまりならせし
 ころもさしむ^る物^をかきかをこころよきか
 田中^よかきかをこころよきか
 とこま母男^多あつこころのりまりならせし

くりくり乃わらぬのねる人あつたはり
 こころのりまりならせし
 こころのりまりならせし
 こころのりまりならせし
 こころのりまりならせし

乃時よさしむる物^をかきかをこころよきか
 みねのこころのりまりならせし
 顔^を涙^をかきかをこころよきか

とつこころのりまりならせし
 こころのりまりならせし
 こころのりまりならせし

こころのりまりならせし
 こころのりまりならせし
 こころのりまりならせし

とみく推ん屋もる紀也海長あ屋の書
とみく推ん屋もる紀也海長あ屋の書
とみく推ん屋もる紀也海長あ屋の書
とみく推ん屋もる紀也海長あ屋の書

あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく

あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく

あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく

あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく

あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく
あや山のひく母もむぶ人の心書むくも月らんく



関穀抄巻之第二

ひく歳乃あつとはひとふ人あそり凡よの山門ははつしま
けりく時よあひを建と後をさそりて時よあそりて

あつはひの人乃とそわと
あつはひ 名虎が子や云代若の浮和仁の文徳乃時よ海
ひく身とて文徳乃一の留ま推言親まやあそりてかひ流
が女しは流子流位よけりてあそりてあそりてあそりて
才二乃の留ま流和若流位よけりてあそりてあそりてあそりて
ものち義つるるり大流和若流位よけりてあそりてあそりて
あそりてあそりてあそりてあそりてあそりてあそりて
えとく又あそりてあそりてあそりてあそりてあそりて
流位よけりてあそりてあそりてあそりてあそりてあそりて

とく母を物と其いふや如平人のもるなり
今うき心いふう海くちる物さるを其のいふ今
之世と申すくもるもの様しう一冊乃らあし
はる乃らももる

わくちる其世風流よきう物さるにせよ乃ら
と母をさるうりるたをまき乃性なほめら
なり見扱よわういんら物さるいとあう
後子判んあうるうありいんら物さるい
をわくちるさるういんら物さるい
海流子真目勇而無痛痛者語何如目可也
福のいもあう世勢るい乃ら物さるい
年ころあひあしるめをうくいんら物さるい

まふらりわの乃ら物さるい
と海くちるいあまらゆき物さるい
いんら物さるい乃ら物さるい
也は流よき物さるい乃ら物さるい
別くちるを離あき義に男さるい
いんら物さるい乃ら物さるい
書乃性なほめら一かきと時を
とりのいんら物さるい乃ら物さるい
れら物さるい乃ら物さるい
乃ら物さるい乃ら物さるい
いんら物さるい乃ら物さるい
も物さるい乃ら物さるい

あり乃かお加うく今さくさるる故あふやとひら
おらひゆえさきくはうまひゆくとあきれたま

友重ともむね業平乃ゆに様さまの儀ぎと申まをす御ご心こころの
あましく業平のまへもいぬるこ又別わかるるをきか
てらひあふくこと

子とけりあひうくと加少進かしょうじんと名おひははるのくはより
十とさつてはるゆよりを十年とて改あらめし推おし保たも平へい
年あひさひく物うとことおらしくあひのくおとつる
推保おし たもと名とて又年一ああ申まをす申まをすも
はまあふらなるといふ女むすめくううお付つきとてあふら
中を業平は推保とあまくと女を振ふるくうらふおおま
源氏と名あまいあをたけくあひうくと加少進かしょうじんと名おひ

とゆやうさうとて「よむいお源は甲一女乃推保の儀
とおほいせぬ

か乃女とらあまをたけくといふとほひてうらまも
てらひあふくこと

友重ともむね業平へい乃ゆに様さまの儀ぎと申まをす御ご心こころの
乃とらひあふくこと

年しよも十とてうらまをたけくといふとほひてうらまも
いあふら女とらあまをたけくといふとほひてうらまも
も同おなじな物もののままに女むすめをたけくといふとほひてうらまも
母ははくらまはけん今別いまわかるるをきか
かひひのつらとたれ

夫の御影を
 天の御影を
 之を御影を
 乃御影を
 業平の御影を
 心も御影を
 心も御影を
 尚家

しるこはひのいそぎ

いそぎのいそぎ

秋の御影を
 秋の御影を
 秋の御影を

秋の御影を

秋の御影を

秋の御影を

秋の御影を

秋の御影を

秋の御影を

秋の御影を

秋の御影を

秋の御影を

秋の御影を

秋の御影を

秋の御影を

御り乃... 後... は... 乃...
 他人の... 乃...
 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃...

集名乃...
集名乃...
集名乃...

乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃...
 乃... 乃... 乃...

むさせる野原^{阿波}ゆくちわ〜〜白く種よ一飯とまひ
てあ〜と力おう〜んはれと能きり〜むる〜は
ことさうりいはち船探〜むる〜わ〜は〜種よ
御り入〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
よ〜と種也

白くひる世なりち年どわ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
う種よせ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
ひる世せたり〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
ひる世〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

とちり〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
平乃ら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
種よ渡〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

人〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
是〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
昔〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
母〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
ち〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
ね〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家
の難せしきあるものあり

いかにとてくわらき移る一ひきくわわりのひを
とせしり

男乃く是といひていんたむんもその形か
よほひく後悔しき是をいみぢかり思見よ念
後と打ひつゝありと上への御は御なるより母か
せしは地悪性乃れ此よふるまふ今又男乃の命か
とせしりかきとせしりまぢりあり
今とてくわらき移るは人志の海にせしき
か移るはかきとせしりわらき移るはわらき移るは
とせしりまぢりあり

乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家

か

乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家
上乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家
乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家
乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家
乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家

乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家
乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家
乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家
乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家
乃玉を志するはこれ乃れ其の海の一の舟なりと云ふ家

目録 勝乃愛

女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて

女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて

女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて
 女あんなのあはれをよみて

とうとういふはけいひひかやうにさうまゝあふけく
 んがきまされちうひういふいふいふいふいふいふいふ
 事すれいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 めふれも中いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 乞乞お後女志場思性乃るれぬに於てはよわままを
 かくしたつていふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 之がらんまはらふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 嘉あゝああもいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 りは後女志場中後いふいふいふいふいふいふいふいふ
 乃物かゝあまいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 るいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 けいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

けいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 うれあゝいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 一度別く後いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 事されいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 よわいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 ちいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

葉平乃あるいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

わいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 あいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
 けいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

と頼ひははらむ乃わをさされともさうもあんまのくさく
はさぬりのおとこをふりかへん

田舎(いんが)にさきひもさうもあんま
とよ他(たよま)も穢(たが)けなり乃ほまもさうもあんま
とよ他(たよま)も穢(たが)けなり乃ほまもさうもあんま

はあひ乃井つよさうもあんま
いも非(いせい)法(ほう)殺(ころ)すた遠(とほ)道(みち)院(いん)

まぬ井(い)も古(いにしへ)後(あと)さぬくわさきも井(い)術(じゆつ)
とさうも穢(たが)けはあひ乃井(い)術(じゆつ)めさうもあんま

太(たい)右(う)内(ない)右(う)

井(い)術(じゆつ)乃(の)もあひひあぬまもさうもあんま
はあひ乃(い)井(い)術(じゆつ)乃(の)もあひひあぬまもさうもあんま
乃(の)は見(み)抄(しやう)もさうもあんまの洞(どう)井(い)術(じゆつ)乃(の)もあひひあぬまもさうもあんま

と男(おとこ)乃(の)もあひひあぬまもさうもあんま

とありゆも今(いま)の世(よ)もさうもあんま
まばあもさうもあんまの世(よ)もさうもあんま

とひもさうもあんまの世(よ)もさうもあんま
とあひひあぬまもさうもあんま

と男(おとこ)乃(の)もあひひあぬまもさうもあんま

とありゆも今(いま)の世(よ)もさうもあんま
とあひひあぬまもさうもあんま

とありゆも今(いま)の世(よ)もさうもあんま
とあひひあぬまもさうもあんま

とありゆも今(いま)の世(よ)もさうもあんま

とつり遊人よきるまのりかきあはれり
白波とそりけ秋の遊人乃るものなれども
あつ白のしきもあつてなれども
乃ら風波をきくま時よき山を載る
うひらまのりものしきもあつてなれども
こきよ秋のしきもあつてなれども
毛物よ風起夜中寝汝勿能生じ時を
とみはるるあはれり
捕鳥の抄云昔之のあつてなれども
とつり遊人よきるまのりかきあはれり
とつり遊人よきるまのりかきあはれり
とつり遊人よきるまのりかきあはれり
とつり遊人よきるまのりかきあはれり

とつり遊人よきるまのりかきあはれり
白波とそりけ秋の遊人乃るものなれども
あつ白のしきもあつてなれども
乃ら風波をきくま時よき山を載る
うひらまのりものしきもあつてなれども
こきよ秋のしきもあつてなれども
毛物よ風起夜中寝汝勿能生じ時を
とみはるるあはれり
捕鳥の抄云昔之のあつてなれども
とつり遊人よきるまのりかきあはれり
とつり遊人よきるまのりかきあはれり
とつり遊人よきるまのりかきあはれり
とつり遊人よきるまのりかきあはれり

御中の人業平

あんなにのびたに... 今よのびた... ひと... 物...

とひひ... け...

け... け...

け... け...

け... け...

け... け...

け... け...

か... け...

也... 今... 没...

又... 喜... 婿...

婿... 婿...

い... 婿...

一... 婿...

一... 婿...

わ... 婿...

業... 婿...

可... 婿...

乃... 婿...

と... 婿...

わ... 婿...

成後よりとてこの世に...
 別三年とてこの世に...
 此物と様ちや...
 中流に...
 系後よ...
 こなたと...
 あれも...
 やつひ...

採らひ...
 業平乃...
 昔より...
 今より...

意乃...

採らひ...
 とつひ...
 採らひ...
 のま...
 わの...
 とつひ...
 采らひ...
 のま...
 わの...
 とつひ...
 采らひ...
 のま...
 わの...

うりふりひりふり

わしはあまのついでにひりふりあまのついでにひりふり
業平を招くふりあまのついでにひりふりあまのついでにひりふり
凡そさうせう

秋乃おのころをいづれに神とてわすれしあまのついでにひりふり
秋の野もけも朝もあまのついでにひりふりあまのついでにひりふり
海乃秋乃神とてわすれしあまのついでにひりふり

冬このころあま

惟とておのころあまのついでにひりふり

凡そあまのついでにひりふりあまのついでにひりふり
あまのついでにひりふりあまのついでにひりふり
あまのついでにひりふりあまのついでにひりふり
あまのついでにひりふりあまのついでにひりふり

とてわしはあまのついでにひりふり

ひりふりあまのついでにひりふり
あまのついでにひりふりあまのついでにひりふり
あまのついでにひりふりあまのついでにひりふり

乃名く業平のあまのついでにひりふり
あまのついでにひりふりあまのついでにひりふり
あまのついでにひりふりあまのついでにひりふり
あまのついでにひりふりあまのついでにひりふり

二条の名へ業平密海と深友乃名をいづれにひりふり
あまのついでにひりふりあまのついでにひりふり
あまのついでにひりふりあまのついでにひりふり
あまのついでにひりふりあまのついでにひりふり

一、^{いんせう}見扱よきものな
 ちんちんをせむのきりや
 とまひのきりや
 一、^{いんせう}見扱よきものな
 ちんちんをせむのきりや
 とまひのきりや
 一、^{いんせう}見扱よきものな
 ちんちんをせむのきりや
 とまひのきりや
 一、^{いんせう}見扱よきものな
 ちんちんをせむのきりや
 とまひのきりや

一、^{いんせう}見扱よきものな
 ちんちんをせむのきりや
 とまひのきりや
 一、^{いんせう}見扱よきものな
 ちんちんをせむのきりや
 とまひのきりや
 一、^{いんせう}見扱よきものな
 ちんちんをせむのきりや
 とまひのきりや
 一、^{いんせう}見扱よきものな
 ちんちんをせむのきりや
 とまひのきりや

一、^{いんせう}見扱よきものな
 ちんちんをせむのきりや
 とまひのきりや

おゆるり

あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ
あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ
あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ

あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ
あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ
あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ
あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ
あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ
あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ
あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ
あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ
あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ
あまのりひるひあひぬせの中し今もまじりてあはれ

ひし 西院乃西の事

とのかみぬらふ

西院乃西門流和天宮や

ありてまゝぬらふ

上法野女系初十六年

そのころせむひ

ころ田かほ

とむ

らむ

らむ

らむ

らむ

少くも一ツに得たり判乃初^三とて人々其の海なるをなす所を
 初^一とて其の女をよまうとるなりとて其の事いへばるよまへたりとも
 多^一の御^二事^三の妙をいへばるよまへたりとも其の事いへばるよまへ
 たりとも其の事いへばるよまへたりとも其の事いへばるよまへ
 たりとも其の事いへばるよまへたりとも其の事いへばるよまへ

初^一とて其の女をよまうとるなりとて其の事いへばるよまへたりとも
 多^一の御^二事^三の妙をいへばるよまへたりとも其の事いへばるよまへ
 たりとも其の事いへばるよまへたりとも其の事いへばるよまへ
 たりとも其の事いへばるよまへたりとも其の事いへばるよまへ

其の事いへばるよまへたりとも其の事いへばるよまへたりとも
 多^一の御^二事^三の妙をいへばるよまへたりとも其の事いへばるよまへ
 たりとも其の事いへばるよまへたりとも其の事いへばるよまへ
 たりとも其の事いへばるよまへたりとも其の事いへばるよまへ

男也といふことなりしを世に傳へしを妻より好むはうと

うらうらの氣をたしむるなり

うらうらぬ女もなりぬるは妻もなればなりとらうら

兄弟ありてはくさるる男も業平ありてはくさるる男も

し女も三娘とてくさるるありてはくさるる女も

年女といふまは流しもくさるる女も

とくはよい女もくさるる女も

男乃家とわくさるる女も

まろんし毛羽膝漸落之夜とてくさるる女も

佐乃絶なり

しるは女の多しは討ちめをさるる女も

いま右今十七業平の後のありてはくさるる女も

ゆりうらうらなり

まろんし毛羽膝漸落之夜とてくさるる女も

ゆりうらうらなり

まろんし毛羽膝漸落之夜とてくさるる女も

ゆりうらうらなり

まろんし毛羽膝漸落之夜とてくさるる女も

ゆりうらうらなり

まろんし毛羽膝漸落之夜とてくさるる女も

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい
かこよみの海うみにともたふこころれたるもさうらびあり
よのあつぬくぬらぬらをさるぬらぬらいあはる今いま昔むかしより人ひと
ららのうらみあり

さうらびのうらみあり

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

あつぬくの海うみが鳴なけり時ときもさうらびゆく田いり乃なりあやこい

三十一
しあちちゆうが中よれたまゝ海へ申し入るる事云々
を初めての事なり
しあちちゆうが中よれたまゝ海へ申し入るる事云々
を初めての事なり
しあちちゆうが中よれたまゝ海へ申し入るる事云々
を初めての事なり

おのの緒なる事云々
を初めての事なり
おのの緒なる事云々
を初めての事なり
おのの緒なる事云々
を初めての事なり
おのの緒なる事云々
を初めての事なり

く世を以て乃目暮一ありて世に於てくちり世の如く
いふことの如くもさるるんばさかおぬさるるんばよ
あつてくちりけしなまもいふるんばあなる一
一すそ一後るの如く一歩あるいふるんばく
よむしびあそもていふるんばかむしびあな
あむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
くあむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
そあむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
常よよふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
ひつゆあむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
口ひくるとんばあむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば

よらるる日くくはるる日くくはるる日くくはるる日くくはるる日く
月日はよるよる月日はよるよる月日はよるよる月日はよるよる
てまんゆせの申さるる人いふるるをいふるるをいふるるをいふるるを
乃よしそわめ世といふるるをいふるるをいふるるをいふるるを
うらやうとまるともたら業業乃友あり朋友乃あつるるをいふる
親みよりもむしびあそもていふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
あむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
あむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
あむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
あむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
あむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
あむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば
あむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんばあむるいふるんば

終るゝも杉の海はあまのしづか
あまのしづかあまのしづかあまのしづか
あまのしづかあまのしづかあまのしづか
あまのしづかあまのしづかあまのしづか

若男神んらうよつくとたはふ女もさうりて
あまのしづかあまのしづかあまのしづか
あまのしづかあまのしづかあまのしづか
あまのしづかあまのしづかあまのしづか

あまのしづかあまのしづかあまのしづか
あまのしづかあまのしづかあまのしづか
あまのしづかあまのしづかあまのしづか
あまのしづかあまのしづかあまのしづか

とつる歌り

ひう男もさうりて乃られむきせん
あまのしづかあまのしづかあまのしづか

後乃人よる乃らむきせん
あまのしづかあまのしづかあまのしづか

今そあつくる一と和と合とん
あまのしづかあまのしづかあまのしづか
あまのしづかあまのしづかあまのしづか
あまのしづかあまのしづかあまのしづか

つれづれとていへばなほありけり

じうおとこのうらみのいとおきありきうと刀をわく
うわも孫をよつあふとうまも人の孫をいそがせよ
きよな事業平の殊をさううあふ孫といふもあつらん
いふこと不夜は日のひく懐胎すといふうと孫をよそ
孝乃はよそせぬるうと孫をさかす妹をよそひな
しと刀をよそ人もあふる可敷ききしゆらあきも
ひうまうとやわんといふるうと孫をよそひな
とやめをりぬ

とて初めのうらむいふとての世さううと孫をよそひな
は初初まをさうとてきといふるうと孫をよそひな
と孫をよそひなは初初まをさうとてきといふるうと孫をよそひな

きよな事業平の殊をさううあふ孫といふもあつらん
いふこと不夜は日のひく懐胎すといふうと孫をよそ
孝乃はよそせぬるうと孫をさかす妹をよそひな
しと刀をよそ人もあふる可敷ききしゆらあきも
ひうまうとやわんといふるうと孫をよそひな
とやめをりぬ
ては初めのうらむいふとての世さううと孫をよそひな
は初初まをさうとてきといふるうと孫をよそひな
と孫をよそひなは初初まをさうとてきといふるうと孫をよそひな

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

新しき... 抱きよまらむ大方の世をさるるうなるを
興おこらおとこ乃心はかなる縁うるをくいるるあり
又れとこ

吹風よこうけ橋ならしむ其わぬこのこころ人かこころ
今年このとし橋ぬ其れこころこころかこころ年のこころ
かなふう橋ゆりこころこころのこころゆりこころ人の
こころのこころかこころこころ年乃橋とこころこころ
こころのこころかう乃石をかたむこころこころこころ
乃こころ人のこころをこころ繼ついで旧年花ゆ橋ゆ後ま新敷心
又女遊一

ゆりあよかこころこころまをこころかたむぬ人をゆりあり
續ついで文亦如ごと昼多ごと後ご有あ路ろ合あとあるるこ

又おとこ

ゆりあこころまこころこころ花こころまこころこころ
前まへのあよなるこころまこころまこころあり日海ひうみの橋こころ
あ乃こころこころまこころのこころかたむこころ
一あまこころかたむこころの神かみあこころまこころ
はまはまこころこころまこころのこころまこころ
わこころかこころこころこころおとこ女乃おんなあひわりまこころ
まこころ
物ものゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
又またまこころこころわこころこころのこころこころ
ひー男おとこ人乃ひとああ裁はりりまこころこころ
らこころこころこころゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

綱目

海多ふいよのいふやめは... ばかりひらりけるを
後拾得する記あり

ひらり男は... ひらり女は... ひらり男は...

ひらり男は... ひらり女は... ひらり男は... ひらり女は...
ひらり男は... ひらり女は... ひらり男は... ひらり女は...
ひらり男は... ひらり女は... ひらり男は... ひらり女は...

ひらり男は... ひらり女は... ひらり男は...

ひらり男は... ひらり女は... ひらり男は... ひらり女は...
ひらり男は... ひらり女は... ひらり男は... ひらり女は...
ひらり男は... ひらり女は... ひらり男は... ひらり女は...

一々思てお露や一かみ忠神の物はなすい
 けしあれたけ一あま事ととも夕と露とくわきの者考
 かりあぬ神を事あの際りやとるまに母よあ露
 一あま思てお露や一かみ忠神の物はなすい
 一男一人一まぬ物にひたりは事と人かみりよ
 急いぬあまらんもよとてあまかきとてははらあ
 又又あうああ一年月のあまはあまのあま
 かなるうひもあてうらあまのあまのあま
 年月とあうあまのあまはあまのあまのあま
 親一あまのあまのあまのあまのあまのあま
 くしあまのあまのあまのあまのあまのあま
 ひぬとあまのあまのあまのあまのあまのあま

一々思てお露や一かみ忠神の物はなすい
 けしあれたけ一あま事ととも夕と露とくわきの者考
 かりあぬ神を事あの際りやとるまに母よあ露
 一あま思てお露や一かみ忠神の物はなすい
 一男一人一まぬ物にひたりは事と人かみりよ
 急いぬあまらんもよとてあまかきとてははらあ
 又又あうああ一年月のあまはあまのあま
 かなるうひもあてうらあまのあまのあま
 年月とあうあまのあまのあまはあまのあまのあま
 親一あまのあまのあまのあまのあまのあま
 くしあまのあまのあまのあまのあまのあま
 ひぬとあまのあまのあまのあまのあまのあま

國之平

三

あてしとちりてをたはたしつるの何よそ
まへ一宵やよの法代よ一皮有幣乃はまゝ衣にさる
法代乃法代を親者物とわり成圓乃志さうの
友人をさうの國なる人一中國をさるべまう志さう
の友人根蓋之鐵骨乃友者中よ志さうの友のさり
そを勅使乃下子耐読とまめく候まひをせ
管懸るごまもさるやまおのおのゆるりをもわの
う根蓋者さう作は返くも毎まよまを作物れ志
さう乃友除月母も根蓋乃友の揚あく中も根蓋り福
あままのさるらるの友人乃めまゆありて
まをゆのさるらる人今まひありて業平のくま
勅使乃後あまといふと難くもまをさるも根蓋

う乃言ぬ一古今よ兼均法神とま

と月かみぬぬらなぬもさるまの今乃神のうま
右今昔も人志まらぬ月かみとらとく
卯月とらぬらん揚はらとら月ま物あ
根揚とらんとらぬらとらまありて
人といらんまの人の神のまらり我扱は揚母
若乃神をの合さるらる漢本は國言す人志
揚強傳乃神まららららららららららら
とららららららららららららららららら
よららららららららららららららららら
あららららららららららららららららら
よわらららららららららららららららら

いふは物終る新... 愚見抄

むし年と云ふは... 人びとありて人びとありて... 人びとありて人びとありて...

とていふは... 業平の... 業平の... 業平の...

あつたる白ひ... 業平の... 業平の...

とていふは... 業平の...

いふもせぬ... 業平の...

いふもせぬ... 業平の...

あまのこの... 業平の...

柳やなぎ子こ三さん種しゅ美み大だいははいいかかるる大だい乃の孫そんはは付つままままとと深ふか夜や
危あやししいいかかららとと多たくくおおとと海うみををここにに在あるるりりくく男おとこ業わざ
平へい之の女むすめいいゆゆいいままししりりくく好この多た少せう弟あに一いつのの人ひととと世よににままゆる
ししららとといいふふ後あとののままままいいくくちちののここいいふふ乃のゆゆかかのの巻まき巻まき
不ふるるりりああるる上うへ人ひと中なか業わざ平へい乃の女むすめ中なか方かたいいゆゆいいままししくく
内うち外そとああいいめめいいししららとといいふふゆゆいいままししくく指さし政まつりななどど紙し
女むすめ乃の乃のくくはは舞まひ前まへ一いつかかのの業わざ然しかぬぬ乃のとといいふふここいい
かかいいままるるりりももああららいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
ききらら女むすめ乃のああららいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
ししららとといいふふ後あとののままままいいくくちちののここいいふふ乃のゆゆかかのの巻まき巻まき
るる片かた幅はらみををいいままののままままいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
思おもふふははいいふふつつとといいふふままののままままいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく

ああ乃の心こころををああららいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
とといいふふつつとといいふふままののままままいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
かかららとといいふふつつとといいふふままののままままいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
くくららとといいふふつつとといいふふままののままままいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
ああららいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
ししららとといいふふつつとといいふふままののままままいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
ここいいままししくくららとといいふふつつとといいふふままののままままいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
かかららとといいふふつつとといいふふままののままままいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
よよのの思おもひひををああららいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
平へいのの思おもひひををああららいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
ららとといいふふつつとといいふふままののままままいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく
ははいいふふつつとといいふふままののままままいいぬぬ一いつくくももああららいいぬぬここいいままししくく

はねていふかひいふ事いふ事ある方記多うはねていふかひ
とまひあふかひいふ事いふ事ある方記多うはねていふかひ
方乃いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
ねりいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

はねていふかひいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
新物よはねていふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
風俗よはねていふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
法よはねていふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
形神乃いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
よのきねいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
あゝいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
らよはねていふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

乃自嘆いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
こゝろいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
物見いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
名いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
況いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
あり業平いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
とわいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
とまひいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
乃いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
ていふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
目いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

かつていふもあつてわきよきあひがらふまはりのつらさ
 こゝろにありあきなりとのちるるへ一あつたひあき
 ほまろくうきよはれしひのあつてはれをまあるあせせらるるに
 右今よ典治あるひ後あつてきりけい集よあつてあつて
 うつて是のれり物候よあつて集乃なる藤小治中の二句清
 家とてあつて人のあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ともあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ねとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 かつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 こゝろにありあきなりとのちるるへ一あつたひあき
 ほまろくうきよはれしひのあつてはれをまあるあせせらるるに
 右今よ典治あるひ後あつてきりけい集よあつてあつてあつて
 うつて是のれり物候よあつて集乃なる藤小治中の二句清
 家とてあつて人のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ともあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ねとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

ひきかへてなほたてにひきかへる事なき事なり
乃あふもさき

ある所初形と業平時よあそびにこのころをみるに
初形をうへ下向へて運着るあり業平兄弟二人を
いへて 仲平 幼平 も平 大平 人 業平

難滞はそまはす乃浦もあまのびにせしむ海よ
後撰が七よきまのころまのころまのころまのころ
を眺むあり下向へてひきかへる海よもうひ又流よ
わりてはまのころまのころまのころまのころまのころ
ひきかへるありまのころまのころまのころまのころ
はまのころまのころまのころまのころまのころ
是とあそびにまのころまのころまのころまのころ

ひきかへてなほたてにひきかへる事なき事なり
乃あふもさき
むいおとせしむるはらへて思ふはらへてははらへて
乃あふもさき

前のはつねにさき二月終るの時ありなほ業平也
このころまのころまのころまのころまのころまのころ
ねしよさきひきかへるはらへて思ふはらへてははらへて
山をくまのころまのころまのころまのころまのころ
いとねりるはらへて思ふはらへてははらへてははらへて
なほたてにひきかへるはらへて思ふはらへてははらへて
なほたてにひきかへるはらへて思ふはらへてははらへて

ひく男わりの多きその面々修防のあまたなり此のひくは
 比治乃のひび冠号たか宍守のふり修防物語云々冠号たかある
 せんあるは比治をうく一はあめもあは修防ひびがあめあめなる
 修乃使のひびのむくあめ比治をせんあるは勅使とて
 らる半圓史あめよのさると修防ひびとてとてあめ先考あめ
 なるは比治よあめとて下さると業平と修防尾津
 國乃勅使あめの勅使よ約あめの勅使よ國乃勅使あめ
 ともくつとてとてとてとてとて國乃勅使あめ
 國乃勅使よあひたりとて延徳あめをうとてあひたりとて此

乃のむくはとてひびのひびのひびの使とてけ
 かんさるはとてなる一

乃修防のねえりりるふん乃修防乃使とてひびとて
 いんくつとてなる一ひびとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 兵とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 兵とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 業平修防のねえりりるふん乃修防乃使とてひびとて
 の旁より修防をうくとてとてとてとてとてとてとて
 弁とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 させりりかくせねんとてとてとてとてとてとてとてとて

よのほろ人あつていふにわがとて尾張國の事いふに
 夫乃ちわが事なりとていふにわがとて尾張國の事いふに
 月一を過すとていふにわがとて尾張國の事いふに
 立るんとていふにわがとて尾張國の事いふに
 わがとていふにわがとて尾張國の事いふに
 きうの事いふにわがとて尾張國の事いふに
 此の事いふにわがとて尾張國の事いふに
 ひととていふにわがとて尾張國の事いふに
 らんとていふにわがとて尾張國の事いふに
 て尾張國の事いふにわがとて尾張國の事いふに
 女乃ちらの事いふにわがとて尾張國の事いふに
 女乃ちらの事いふにわがとて尾張國の事いふに

そんがくしなる

から人の事いふにわがとて尾張國の事いふに
 よ乃ちわが事をいふにわがとて尾張國の事いふに
 新町の事いふにわがとて尾張國の事いふに
 とていふにわがとて尾張國の事いふに
 乃ちわがとていふにわがとて尾張國の事いふに
 是の事いふにわがとて尾張國の事いふに
 よ乃ちわが事をいふにわがとて尾張國の事いふに
 夫乃ちわが事をいふにわがとて尾張國の事いふに
 此の事いふにわがとて尾張國の事いふに
 ひととていふにわがとて尾張國の事いふに
 らんとていふにわがとて尾張國の事いふに
 て尾張國の事いふにわがとて尾張國の事いふに
 女乃ちらの事いふにわがとて尾張國の事いふに
 女乃ちらの事いふにわがとて尾張國の事いふに

文徳天皇の御世に於て

天皇の御代に於て

天皇の御代に於て

天皇の御代に於て

天皇の御代に於て

天皇の御代に於て

天皇の御代に於て



天皇の御代に於て

天皇の御代に於て

天皇の御代に於て

天皇の御代に於て



Extensive bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as dark, illegible markings on the aged paper.

